

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2024年5月27日(月)～6月2日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

5月27日(月)

今日の聖書日課：出エジプト 35：1～19

あなたがたの中から主への奉納物を受け取りなさい。すべて、進んで献げる心のある人に、主への奉納物を持って来させなさい。すなわち、金、銀、青銅、

出エジプト 35：5

かつて、最初にシナイ山に入ったときに主がモーセに語られたこと(25:2)。しかし、あのときとこの時は状況が違います。イスラエルの民は金の子牛を造り、主を怒らせました。モーセの必死のとりなしと、主のあわれみのゆえに、彼らは赦され、契約は更新されたのです。「進んで献げる」心は、あのときよりも強く、深くされていたことでしょう。

同じみことばを語られても、私たちの状況によってその響きは変わっていくのです。

5月28日(火)

今日の聖書日課：出エジプト 35：20～35

また、彼の心に人を教える力をお与えになった。彼と、ダン部族のアヒサマクの子、オホリアブに、そのようにされた。

出エジプト 35：34

かつてモーセがシナイ山で主から聞いたみことばは、そのとおりにになりました。職人であるベツアルエル(30)、そしてオホリアブも実在したのです。たしかに彼らには幕屋を造るための技術がありました。しかし、それだけではありません。この二人に主は、人を教える力も与えられたのです。彼らは自分たちの技術を、ほかの人に教えたのです。

主の弟子もまた、同じ。主から力をいただいています。でも、それで終わらない。その力を伝える、教えることが求められています。次の聖句には四代に渡って、人を教えることが命じられています。わかりますか？「多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。」(Ⅱテモテ 2:2)

教えるべき技術、知恵、力があります。同時に、その対象となる相手もいます。神さまから、それが何なのか、誰なのかを示していただきましょう。

5月29日(水)

今日の聖書日課：出エジプト 36：1～38

モーセは告げて言った。「民は何度も持ってきます。主がせよと命じられた仕事のためには、あり余

るほどのことです。」(5)

いよいよ、幕屋の作成がスタートしました。最初に作られたのは、「幕」とその幕をかける骨組み。しかし、その前に、あの主の命令によって、進んで献げる者たちの姿が描かれています。それはすごかった。イスラエルの民は、「なおも朝ごとに、進んで献げるものを彼のところに持って来た。」(3)。ささげ物が止まらない。うれしい悲鳴！ついにモーセは命じました。「男も女も、聖所の奉納物のためにこれ以上の仕事を行わないように。」(6)。こうして民は持って来るのをやめました。

これもまた、金の子牛事件から始まった民の罪とその赦し。主のあわれみに対する感謝と喜びからきたものでした。私たちのささげ物はこのような感謝と喜びから来ているのでしょうか？

5月30日(木)

今日の聖書日課：出エジプト 37：1～29

ベツアルエルは、アカシヤ材で、長さ二キュビト半、幅一キュビト半、高さ一キュビト半の箱を作り、

出エジプト 37：1

今日の聖書日課 37 章には、「契約の箱」から始まって机、燭台、香の祭壇が作られたことが記されています。これもまた、シナイ山で主がモーセに語られたこと。あのときモーセに語られたことばは、今、モーセからベツアルエルに語られ、そしてベツアルエルはそのことばをかたちにしました。目の前には、実物の契約の箱があります。

神さまのことばを、そのとおりに行うことによって、かたちになる。私たちの信仰生活の基本です。みことばは、ただの絵空事ではありません。従うこと、やってみること。そこに神さまの栄光が現わされるのです。

5月31日(金)

今日の聖書日課：出エジプト 38：1～31

幕屋、すなわち、あかしの幕屋の記録は次のとおりである。これはモーセの命によって記録されたもので、祭司アロンの子イタマルのもとでレビ人が奉仕したことであった。

出エジプト 38：21

実際に幕屋を作った人。それはベツアルエル(22)とオホリアブ(23)だけではありませんでした。多くのレビ人が幕屋建設のために働いたのです。ベツアルエルとオホリアブはいわば監督のような人。幕屋建設は、文字通りチームプレイだったのです。

教会もそうです。牧師や執事のようなリーダーがいて、そのリーダーシップの中で聖徒たちがひとりひとり働くのです。その働きはバラバラではなく、整えられた、結び合わされたもの。私の働きは、私たちの働き。いや、主ご自身のみわざ。教会チームもまた、心を合わせ協力してキリストの教会を建て上げていくのです。

6月1日(土)

今日の聖書日課：出エジプト 39：1～21

こうして、会見の天幕であるすべての奉仕が終わった。イスラエルの子らは、すべて主がモーセが命じられたとおりに行い、そのようにした。

出エジプト 39：32

「すべての奉仕が終わった」ということばに注目！会見の天幕は完成したのです。

6月2日(日)

礼拝聖書箇所：出エジプト 40：34～38 「神が導かれる」

「雲」に注目しましょう！